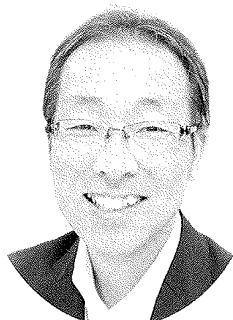


## ■ 基調講演

# 演題：「社会に役立つ人づくり」



## 金 木 有 一 氏

株式会社オリエンタルランド 執行役員 人事本部長

### ◆講師紹介◆

1965年（昭和40年）千葉県生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。1989年4月（株）オリエンタルランド入社。パークにおけるアトラクションのオペレーション業務に従事したのち、14年あまり人事制度の運用・企画を担当。その後経営管理部長，経営戦略部長，営業本部マーケティングアライアンス部長を経て，2013年10月より人事本部人事一部長に着任。2014年4月より現職。

### ◆講演について◆

オリエンタルランドで長く人事関係の仕事に携わり，人材育成を実践してきたなかで考えたことやエピソードなどを交えて，現代社会で求められる能力や心構えなど，会社経営における人材育成の視点で「社会に役立つ人づくり」について，講演をしていただきます。

### ◆会社説明◆

株式会社オリエンタルランドは，千葉県浦安沖を埋め立て，東洋一のレジャー施設の建設などを行い国民の文化・厚生・福祉に寄与することを目的として1960年に設立された。東洋一のレジャー施設の建設の夢は，ディズニーランドの誘致へと変わっていき，その夢が結実し，東京ディズニーランドを開業したのは，実に設立から23年が経った1983年のことだった。

創業時の想いは色あせることなくしっかりと受け継がれ，東京ディズニーランドや2001年に開業した東京ディズニーシーに加え，さまざまな事業を通じて，人々に「夢」，「感動」，「喜び」，「やすらぎ」を提供し続けている。

### ◆会社データ◆

従業員数	社 員	3,211名	準 社 員	18,057名
				(2016年4月1日現在)
連結業績	売 上 高	465,353百万円	営 業 利 益	107,357百万円
	経 常 利 益	109,214百万円		
	当 期 純 利 益	73,928百万円		(2016年3月期)

## ■ シンポジウム

### テーマ

## 地域コミュニティ再生に向けて

～人づくり・まちづくりを

どのようにしていくか～

急激な社会変動による地域コミュニティの在り方が憂慮される中、地域のつながりを生かすさまざまな学習を通じて、人づくり・まちづくりを目指すことは大変重要であると考えます。その中で、社会教育には、地域の人づくり・まちづくりのための学びを支え、地域の力を引き出す重要な役割が求められています。

社会教育のさらなる充実が求められている今日、人づくり・まちづくりの視点から地域コミュニティの再生に向けて様々に考えていきたいと考えます。

そこで、それぞれのシンポジストの実践等からの社会で必要とされる人材やまちづくりの在り方について、御意見や御提言をいただくとともに、会場の皆様からも実践や質疑等を通じて、地域コミュニティの再生の方向性を探るきっかけになればと考えています。

### <登壇者>

コーディネーター	千葉敬愛短期大学学長・千葉大学名誉教授	明石 要一 氏
シンポジスト	百五銀行地域創生部 顧問&まちの宝創造アドバイザー	岸川 政之 氏
	シンクタンク未来教育ビジョン代表 教育クリエイター・一級建築士	鈴木 敏恵 氏
	放課後NPOアフタースクール代表理事	平岩 国泰 氏

## <コーディネーター>

### 明石 要一 氏

千葉敬愛短期大学学長・千葉大学名誉教授



#### ◇略歴◇

東京教育大学大学院博士課程単位取得満期退学。専門は教育社会学。1980年千葉大学助教授，1993年千葉大学教授，2003～2005年同大学学長特別補佐，2005～2007年同大学学部長。2012年千葉市教育委員，2013年文部科学省中央教育審議会委員，同年千葉大学名誉教授。

#### ◇主な活動◇

##### 【社会的貢献の活動】

- 2008年～現在 千葉県青少年問題協議会副会長（～2010年），  
会長（2011年～）
- 2006年～2010年 2010年ゆめ半島千葉国体大会式典委員長，  
大会広報委員長
- 2010年～2011年 NHK関東甲信越放送番組審議会委員長

##### 【主な受賞歴】

2006年 NHK地域放送文化賞受賞

##### 【主な著作】

「生き方が見えてくるナガシマ学」オークラ出版2015，「ガリ勉じゃなかった人はなぜ高学歴・高収入で異性にモテるのか」講談社+α新書2013，「子どもの規範意識を育てる」明治図書2009，「法人化大学を改革する－学部長「守旧派」と闘う－」明治図書2007，「キャリア教育がなぜ必要か」明治図書2005，「子どもの放課後改革がなぜ必要か」明治図書2005，「データで語る平成の子ども気質」明治図書2004，「学級の集団的機能を見直す」明治図書2002，「子ども理解のウォッチング技術」明治図書2002

#### ◇地域コミュニティ再生に向けて◇

##### 1 人が集まる条件は三つ

「安心」と「安全」と「子育て」である。

ヒントは西部劇の中にある。西部に集まった人はまず「教会」を作り，東部から牧師を呼び，不安をなくし安心する。次に子育てに必要な学校を作る。これがコミュニティ・スクールである。そして，「安全」を確保する。馬泥棒や居酒屋でのトラブル解決のために保安官を雇用する。

##### 2 トライアングルで子育てをする。

家庭では「家風」を起こす。家訓や家紋を見直す。

学校では「校風」を起こす。校訓，校旗，校歌の由来を再発見する。

地域では「地域色」を出す。地域のカラーにこだわる。

親は「家自慢」，教師は「学校自慢」，地域の人には「町自慢」をする。

近江商人の「三方よし」・・・売り手よし，買い手よし，世間よしの精神。

##### 3 地域を知り，地域を好きになり，地域をよくする人を育てる。

## <シンポジスト>

### 岸川 政之 氏

百五銀行地域創生部 顧問&まちの宝創造アドバイザー



#### ◇略歴◇

1957年生まれ。大学卒業後、1982年多気町役場入庁。税務課、教育委員会、総務課、企画課、農林商工課などを経て、2015年より(株)百五銀行地域創生部顧問&まちの宝創造アドバイザー、(株)百五総合研究所客員研究員(地域活性化担当)、皇學館大学現代日本社会学部教授、三重大学大学院地域イノベーション学研究科(博士後期課程)大学院生

#### ◇主な活動◇

高校生レストラン「まごの店」やその先輩が運営する惣菜とお弁当の店(株)相可フードネット「せんばいの店」など、コミュニティビジネスの手法を取り入れた地域おこしに取り組む。国土交通省ふるさと手づくり賞大賞、総務大臣優秀賞などを受賞。2011年には「高校生レストラン」と題しテレビドラマ化された。2013年に三重県立南伊勢高校で立ち上げた「南伊勢SBP(若者が中心となり地域活性化に取り組むSBP(ソーシャルビジネス・プロジェクト))」の取組も注目されている。現在は地方の活性化をテーマに、全国各地で「まちづくり」「商品開発」「生き方考え方のヒント」などをテーマにした講演やワークショップも多数開催するとともに、市町村、NPOなどのアドバイザーとしても活躍している。

#### ◇地域コミュニティ再生に向けて◇

どんな組織や取組においても“やっぱり最後は人だよな!”と言われます。これは誰もが認める事実で、全ての人を輝かせていくことが大切だという考え方が「人源輝業」です。

現在、私は若者が地域を愛し、地域の宝“人財”となるための地域活性化プロジェクト“SBP”に取り組んでいます。高校生が中心となり、人、もの、自然、歴史、文化、産業などといった地元にある地域資源を活かし“まちづくりやビジネス”の提案などをし、それを行政や民間企業などが応援していくというものです。この取組は、「若者の地域定着」「地域活性化」「郷土愛の醸成」などの効果が期待され、総務省、内閣府、文科省や復興庁などでプレゼンをするなど国レベルでも注目されています。

私は全国を回り多くのまちづくりを見てきましたが、他地域がモデル(まね)にできず、相互の連携も図れない、その地域内だけの取組が多いと感じました。

例えば、マーチングバンドは世界中どこに行っても共通です。しかし、画一化されたものではなく、使う楽器の構成や演奏する曲、行進の隊形など各チームがオリジナリティを発揮できます。今、日本に必要なのは、このようにベースがしっかりしており、いつでも連携できる環境のもと、それぞれがオリジナリティを発揮できる取組なのです。SBPは、その1つの取組例です。

「地域づくりやまちづくりは、人づくり」だと思っています。そこには「人源輝業」という考え方が重要で、今後もいろいろな取組を通して地域を盛り上げていきたいと考えています。

## <シンポジスト>

### 鈴木敏恵氏

シンクタンク未来教育ビジョン代表  
教育クリエイター・一級建築士



#### ◇略歴◇

東京都出身。日本赤十字秋田看護大学大学院非常勤講師，放送大学非常勤講師（心理と教育）。

文部科学省「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」事業採択「課題解決能力を可能とするプロジェクト学習とポートフォリオの実践調査研究及びコンピテンシー育成2011」。ものづくり日本大賞文部科学大臣賞選考委員2015。文部科学省スーパープロフェッショナルハイスクール事業「埼玉県立常盤高等学校看護教育における教育」スーパーバイザー 他。

公職歴：内閣府中央防災会議専門委員（避難／人材育成），千葉大学教育学部特命教授，東北大学非常勤講師。

#### ◇主な活動◇

教育界，医学界などへ次世代教育を提唱。「防災」「健康」「キャリア」「看護教育」「一人ひとりが成長する目標管理」などをテーマに，大学FD構想，新人研修，指導者育成を主に全国で実施する。

##### 【主な著作】

「プロジェクト学習の基本と手法－課題解決力と論理的思考力が身につく」教育出版2012，「アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する－与えられた学びから意思ある学びへ」医学書院2016，「キャリアストーリーをポートフォリオで実現する」日本看護協会出版会2014，「ポートフォリオでプロジェクト学習！地域と学校をつなぐ防災教育」教育同人社2003，「AI時代の教育と評価－アクティブラーニングからアクティブシンキングへ」教育出版2016.12予定

#### ◇地域コミュニティ再生に向けて◇

プロジェクト学習のゴール＝社会のニーズ。これまで「防災」や「健康」などをテーマに，地域の学校や市民を主役に地域の課題解決プロジェクト学習を全国で実施してきました。「地域コミュニティ再生」のためにも，自ら考える人，意志ある学びを叶える次世代教育の実現が大切と考えています。

##### 【近年の実施事例】

- ・「高知津波／昭和小学校区市民防災プロジェクト」
- ・「地域に住民と伏見を愛する観光客が震災時に安全に避難行動ができる提案／京都市立伏見工業高等学校：文部科学省指定事業「実社会との接点を重視した課題解決学習プログラム2015」
- ・「埼玉県立常盤高等学校：ヘルスプロモーション／地域の社会資源を活かしその人らしい健やかな生活を提案するプロジェクト学習」
- ・「愛媛県新居浜市：地域の社会資源を活かしその人らしい健やかな生活を提案するプロジェクト学習」

## <シンポジスト>

### 平 岩 国 泰 氏

放課後NPOアフタースクール代表理事



#### ◇略 歴◇

1974年東京都出身。1996年慶應義塾大学経済学部卒業，株式会社丸井入社，人事，経営企画，海外事業などを担当。

2005年長女の誕生をきっかけに，放課後NPOアフタースクール活動開始。  
2009年放課後NPOアフタースクール法人化，代表理事に就任。2013年文部科学省中央教育審議会専門委員就任

#### ◇主な活動◇

放課後の小学校を舞台に「アフタースクール」を展開。アフタースクールは，「学校で開催」「市民先生のプログラム」「誰でも参加可能」の3つが特徴。地域の住民やその道のプロ企業などが「市民先生」となり子どもたちに放課後プログラムを開催。首都圏を中心に15校のアフタースクールを開校，50校以上の小学校等にプログラムを提供している。今までに5万人以上の子どもが活動に参加。

#### ◇地域コミュニティ再生に向けて◇

「地域で子どもを育てる」

私たちの展開するアフタースクールには，地域の方が数多くかかわってくださいます。私たちが地域コーディネーターとして，地域の方々にアフタースクールでの「市民先生」や「ボランティア」をお願いしております。今まで3千人以上の方々に，市民先生になっていただきました。

私たちが活動してずっと感じてきたのは，「子どもたちの成長にかかわりたい」と思っている地域の方が非常に多いことです。日頃はなかなかそのチャンスが無くても，機会があれば子どもの成長をご支援して下さる方がほとんどだというのが，私たちの印象です。現代は昔と違って，放っておいて地域コミュニティが形成されるのは難しいですが，私どものような繋ぎ役がいれば，地域と子どもたちは結びつく力を十分に持っています。「地域で子どもを育てる」ということは，日本人のDNAとして確かに息づいていると感じております。

市民先生として参加して下さった大人からは，「街で歩いていたら子どもから『こんにちは。こないだはありがとうございました！』と言われました。」「街の子みんなが自分の子どものように思えて来た。」といった声が聞こえてきます。

これからもアフタースクールを通じて，「地域みんなで協力して子どもを育てる」という具体的な機会を数多く作りだし，「地域コミュニティ再生」の一助を担いたいと願っております。

# 第 3 分 科 会

## 地域の教育力の向上

～子どもをとりまく活気ある  
大人のネットワークづくり～

会 場

TKPガーデンシティ千葉 シンフォニアD

事例発表者

群馬県邑楽郡千代田町 社会教育委員会

柿 沼 正 博

福島県郡山市 「ぐるっと湖南・伝承会」

大 内 紀 男子  
菅 野 洋 子

司 会 者

千葉県教育庁東上総教育事務所 社会教育主事

久 我 康 之

助 言 者

聖徳大学名誉教授・NPO法人全国まちづくり協会

理事長 福 留 強 氏

# チャレンジ手帳の実践から

群馬県千代田町社会教育委員会  
柿 沼 正 博

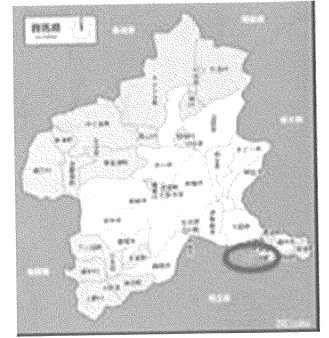
## 1 はじめに

### (1) 千代田町の概況

本町は、群馬県東部で「鶴舞う形」の首の部分に位置します。隣接市町には、秩序ある多文化共生を目指す大泉町や日本一暑いと言われている館林市と埼玉県熊谷市などがあります。

また、町南側は関東一の利根川が流れており利根大堰より首都圏へ水の供給をしている。

人口11,628人で面積約21.76km<sup>2</sup>の農村地帯であるがサントリー利根川ビール工場をはじめとする工業の誘致も盛んに行われている。



群馬県地図

### (2) 社会教育委員の構成

男性9名、女性4名、計13名。委員長1名、副委員長1名で昨年より2名増となっている。委員の選出は、元子育連役員・元体協長・元幼稚園長・元役場職員や家庭教育関係など学識経験者8名と学校長代表・PTA代表・青少推会長・文化協会長・体育協会会長などあて職5名である。

## 2 活動の内容

### (1) ねらい及び経緯

地域・学校・家庭をより「実践的に連携させるというツール」作りで、子どもを見守り育て理想的な社会教育が実現できることがねらいである。

#### ア 自己紹介

わたしは、昭和34年生まれであり、当時は東京タワー建設や日本の復興が急ピッチにおこなわれていた時代であるが、子ども達は外で遊びながら様々な体験をし、なおかつ地域の方々と強いつながりをもっていた時代に育てていただいた。

#### イ 千代田町教育委員会への提案

千代田町の社会教育委員会議に於いて現代の子ども達に何が必要かを協議し《体験こそが生きる力の源》であると結論付けて『チャレンジ手帳』の構想を千代田町教育委員会へ提案し、作成・運営にまでに至った。



社会教育委員会議





この手帳に子ども達が地域等で体験した事柄を自ら記入し、大人が見てあげ捺印をする事で子どもの体験を認め推奨する。

それを子ども自身や学校の先生・家庭で振り返ってもらい、最後には、社会教育委員がコメントを記入して子ども達に返す。

子ども達は、それを基礎にして人間成長していき『地域・家庭・学校の連携』『生きる力の習得』のための重要なツールとなっていくと考える。

## ウ 具体的内容

### 「チャレンジ手帳」の一部中身

この「チャレンジ手帳」にさまざまな項目があり、スポーツ、文化活動、体験学習、ボランティア・環境エコ、そして今年度から家庭生活を導入した。

それぞれの活動を体験しながら子ども自ら手帳に記入をして、周りの大人たち（親も含む）が捺印をし、推奨することにより、さらに子どもたちは積極的に行事に参加し「生きる力」を育ててゆくと考える。わたしたちは、この手帳をツールとして地域・家庭・学校の連携を図るとともに「地域の教育力」の向上を図っている。

町には、17行政区がありそれぞれに区長さんをはじめ、生涯学習推進員を設置している。この方々に各地域での体験学習などを展開してもらいながら地域の教育力を磨いている。

## 3 評価と成果

今年で3年目になるが、まず評価としては、前段に述べたように子どもが積極的にいろいろな行事に参加をして、体験を積んできている。次に親のコメントが子ども達をしっかりと育てようとする意識が向上してきていると感じる。

例1 町のイベントにも参加をして、いろいろな経験が出来たと思います。これからは積極的にイベントに参加し、学んでいってほしいです。

例2 色々なことに興味を持った一年でした。親子で楽しめました。

例3 興味のあることに積極的に参加できればよかったのですが、あと少しという所で気持ちが進まない時もあり、応援が足りなかったことが悔やまれます。

例4 今年は、ボランティア・環境エコ活動が出来ていないので、これからは、私自身も含め子どもと一緒に参加する機会を作りたいと思います。

例5 普段体験できないキャンプや図書館員が出来たことは、大変良かったと思います。

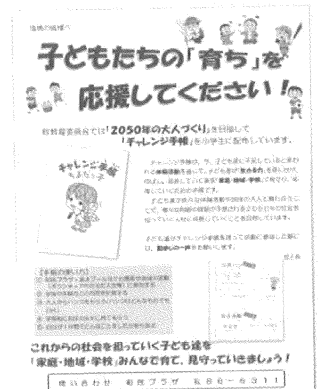
- 例6 毎週いやがらずに自分から着替えていくことができたね。これからも頑張ろう！
- 例7 今年は育成会役員をやったりバレーに参加したり正社員で働いたり忙しい一年でした。子ども達に色々な体験をさせてあげられなかったのが辛いです。出来る範囲で頑張ります。
- 例8 学校でアルミ缶回収やエコキャップ回収にすすんで参加できて「今日は○日だね」と自分から言えるようになり成長が伺えました。このまま続けてほしいです。

### 「チャレンジ手帳」保護者のコメント欄抜粋

まだまだ沢山のコメントがあるが、こうして親が子どもに引き合っていけることも成果であると感じている。まさに親子の絆である。地域の方々にも、子ども達の「育ち」を応援してください！とお願いをしている。

東京の多摩市で、取り組んでいる事業として、「2050年の大人づくり」というキャッチフレーズを許可得て使用させていただいた。

今の子ども達が成長をして、「次の世代の子ども達を育てる」そんな意味があり、地域の活性化を目指している。



「チャレンジ手帳」ちらし

## 4 今後の課題と展望

### (1) 課題

地域・家庭・学校の方々の「チャレンジ手帳」の意義や重要性の認識とツール活用の日常化への推進が課題である。

### (2) 期待と展望

#### ア 「チャレンジ手帳」の期待効果

- (ア) すべての子ども達や大人達までもが「体験学習」・「遊び」を通じて「生きる力」の習得をより多くできる。
- (イ) 地域・家庭・学校の連携がシンプルで、より実践的にとれる。
- (ウ) 親・指導者・先生方の教育方針がマッチすることができ、またそのことから大人自身の人間性向上・コミュニケーション能力の向上が期待できる。
- (エ) 大幅な教育システムを変えずに地域全体における継続的な「生きる力」の教育を行うことができ理想的な社会教育が実現できる。
- (オ) 次世代の豊かな「まちづくり」ができる。

#### イ 「チャレンジ手帳」の展望

このツールを生かし、町教育委員会・学校と相談をしながら、通知表への記入欄を設けていけるよう提案して行きたいと考えている。

また、このツールを是非とも全国的に提案・実施していただき「生きる力」の習得がすべての子ども達に行われるよう、全国の社会教育委員さんのお力添えをお願いしたい。

# 公民館は地域おこしの活動拠点

福島県郡山市「ぐるっと湖南・伝承会」

大内紀男

菅野洋子

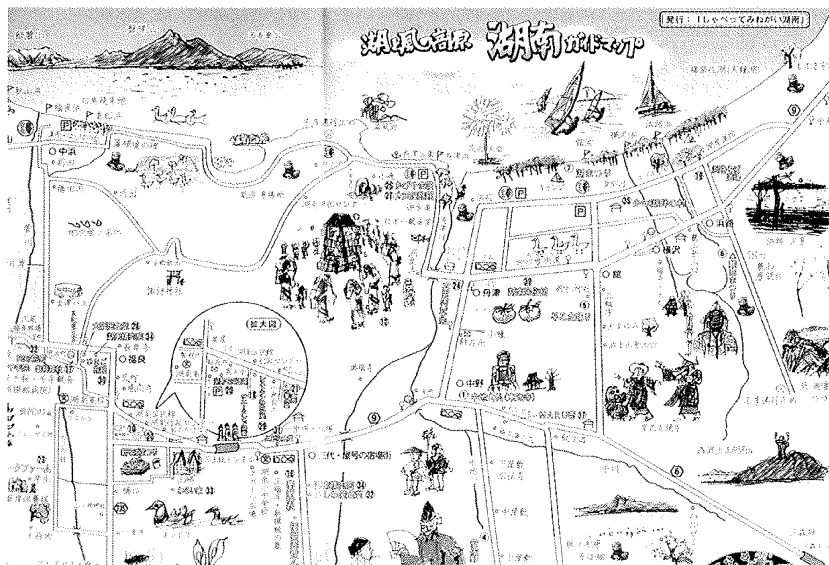
## 1 湖南町の概要

### (1) 湖南町の概略

- ア 郡山市の最西端に位置し、海拔514～520mの山間高冷地。
- イ 北に猪苗代湖・磐梯山を臨み、東・西・南にも800～1,000mの高峰山岳に囲まれている。
- ウ 郡山市街へ33km、会津若松市街へ32.7km、国道294号線が通り国道49号線(猪苗代町J R上戸駅)から16kmの位置にある。
- エ 湖南町の総面積は167.73km<sup>2</sup>で、郡山市全体の20%を占める。
- オ 高原気候で夏は涼しく、冬は会津地方の山沿いに等しく、降雪量は80cm～1.5m(平均)あり、温度も氷点下17℃～18℃位まで下がることもある。
- カ 福島県30景のひとつ舟津公園や布引風の高原(風力発電)など多くの景勝地に恵まれ、また国・県・市の指定文化財等も多く環境に恵まれている。

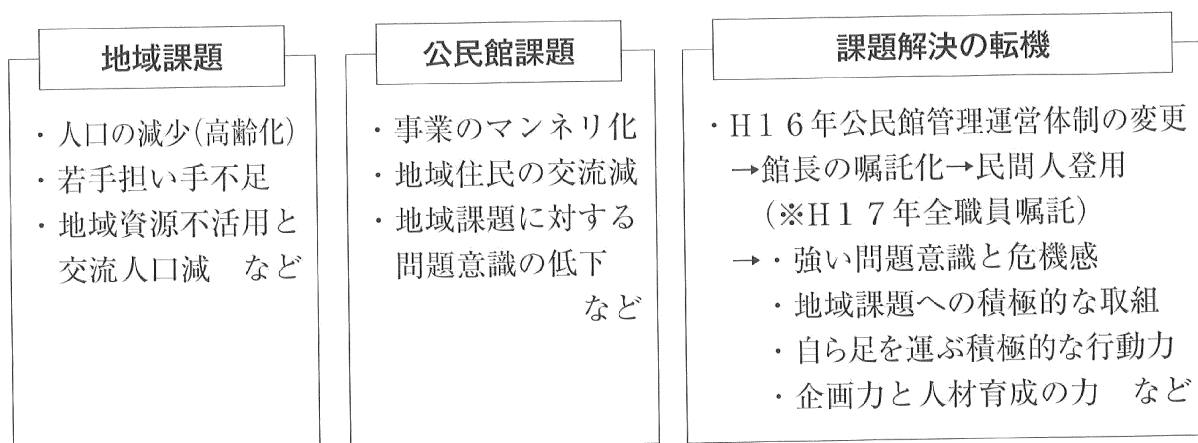
### (2) 湖南町合併の歴史と人口

- ア 昭和30年赤津村、福良村、三代村、中野村、月形村が合併し安積郡湖南村となる。
- イ 昭和38年郡山市、安積郡全町村、田村村が合併し新郡山市が誕生。
- ウ 昭和40年郡山市湖南町となる。
- エ 湖南町の人口は、平成27年4月1日のデータで、3,448人、1,228世帯。65歳以上は40%を占める。  
(10年前の平成18年のデータ：4,290人、1,288世帯)



湖南ガイドマップ

## 2 湖南公民館の取組



### (1) 転換期の主な事業

#### ア ぐるっと湖南 新発見 (H16年度～H23年度)

湖南の文化や歴史・自然など地域の魅力を再発見し伝えることを目的に、湖南出身者をふくめ地区外住民へのPRをはかった。

#### イ 一緒に遊ぶこの指生まれ (H17年度～現在)

低学年児童が利用するお迎えのスクールバス待ち時間を利用し、「フレンズタイム」と称した子供教室を月2回開催。地域住民が茶道や昔遊びの出前講座をひらいて子ども達との交流をはかっている。

#### ウ 伝承人講座 (H18年度～H20年度) ※ぐるっと・湖南伝承会が発足

湖南の豊かな自然・文化・歴史を伝承できる地域住民の人材育成。伝承者やガイドとして必要な知識習得のための講座。

#### エ 皆さん出番ですよ！ (H17年度～H19年度)

年々増加する一人暮らしのお年寄り子ども達のふれあいの場づくり。お料理やスポーツなどさまざまな体験を通じた世代間交流。

#### オ 会津万歳伝承講座 (H15年度～H19年度)

中野地区に残る民俗伝統芸能。後継者問題を抱え活動休止状態になり企画。講座に参加した若手世代が平成23年に20年ぶりに復活を果たす。

#### カ みんなが先生！料理教室 (H18年度)

湖南に伝わる伝統食の継承や地元の農産物をいかした料理教室。新たな料理開発にも取り組み「湖南うまか膳」が誕生した。

### (2) 受賞

ア 平成18年 平成18年度 教育・文化関係表彰 社会教育施設部門受賞

イ 平成24年 第65回優良公民館「文部科学大臣」表彰を受賞

### (3) 成果

ア 主導的リーダーの誕生

イ 学校や地域住民・団体との関わりと連携、情報交換の基盤強化

### (4) 今後の課題

ア 人口減少と過疎化が進む地域課題への持続的な取組

イ 次世代へのバトンタッチ

### 3 ぐるっと湖南・伝承会の取組

#### (1) 発足まで

湖南公民館で企画された伝承人講座の参加者有志14人(60～70代)で平成19年3月に発足。

<発足の目的>

- ア 先人が残してくれた豊富な史跡・文化財を町内外の人々に知らしめる。
- イ 史跡・文化財を子孫に伝承し続ける。
- ウ 地域資源を活用し交流人口を増やし地域活性化を図る。

#### (2) 活動実績

H20年 湖南の史跡、文化財、民俗、景勝地情報を網羅した冊子「ぐるっと湖南」の発刊。

(3,000部～湖南町全家庭、郡山市の全小学校、公民館、図書館、関係機関に無償で配布)

H21年～ガイド養成、地域資源を活用した自主イベントの実施。

湖南小・中・高校の湖南町史跡巡りのガイド役を担当。

H23年 東日本大震災。郡山の仮設住宅避難者を自主イベントに招聘。

H24年～郡山市教育委員会事業への参画支援。

ア わくわく湖南移動教室(～H26年まで)

イ のびのび親子体験事業

親子体験等自主企画イベントの拡大

- (ア) 麓山登山 (イ) ウォーキング (ウ) 雪遊び (エ) 餅つき
- (オ) だんごさし (カ) 湖水浴 (キ) カヌー体験

#### (3) 他団体と連携した活動の展開

ア 郡山田舎体験協議会(H22年～当会&逢瀬田舎体験協議会)

農家民宿の拡大、首都圏からの親子農家体験事業、親子農家民泊事業

イ 猪苗代湖プロモーション委員会(H25年～郡山市&会津若松市&猪苗代町&福島大学&日本大学&観光会社&関係団体&当会)

猪苗代湖を全国、全世界にPRするための事業展開(HP開設、ツアー企画など)

ウ 猪苗代湖観光推進協議会(H28年～猪苗代観光汽船(株)&観光会社&関係団体&当会)

猪苗代湖を活用した観光客誘致事業、猪苗代町と湖南町を船で結ぶ定期航路事業

#### (4) 表彰

H23年 郡山市ハーモニー賞受賞

H26年 郡山市青少年健全育成推進協議会会長賞受賞

郡山市市政90周年記念表彰

#### (5) 今後の課題

会存続のための若手担い手の巻きこみと育成



「第 58 回全国社会教育研究大会千葉大会」基調講演  
オリエンタルランドにおける「人財力向上の取り組み」について（概要）

1 日時及び講師等

- ・ 日時：平成 28 年 10 月 27 日（木）千葉県文化会館
- ・ 講師：(株)オリエンタルランド 執行役員 人事本部長 金木有一 氏
- ・ 演題：社会に役立つ人づくり

2 講演概要

○ 人づくりにおいて大切にしていること

オリエンタルランドらしさ	“人の喜びが自分の喜び”という価値観
	お互いを認め合う文化
	28,000人のチームワーク
シンプルにつくる	SCSE
	より良く・やり切る・一丸となって
一貫してやり続ける	スピリットオブ東京ディズニーリゾート、ファイブスタープログラム、評価、各種研修



「夢・感動・喜び・やすらぎ」を提供できる人財の育成

(1) オリエンタルランドらしさ

- ① “人の喜びが自分の喜び” という価値観
  - ・ ゲスト満足度向上(ゲストの笑顔) ⇔ 従業員満足度向上(ハピネスの提供)
- ② お互いを認め合う文化
  - ・ スピリットオブ東京ディズニーリゾート  
⇒ キャスト同士が仲間の素晴らしい行動を称え合う活動
  - ・ ファイブスタープログラム  
⇒ 上司が素晴らしい行動をしたキャストをその場で称える活動
- ③ 28,000人のチームワーク
  - ・ カヌーレース  
⇒ 年1回職場の仲間に参加。一体感の醸成が進む。
  - ・ サンクスデー  
⇒ 年1回閉園後に準社員をゲストとして迎える。役員・社員がキャスト役。

(2) シンプルにつくる

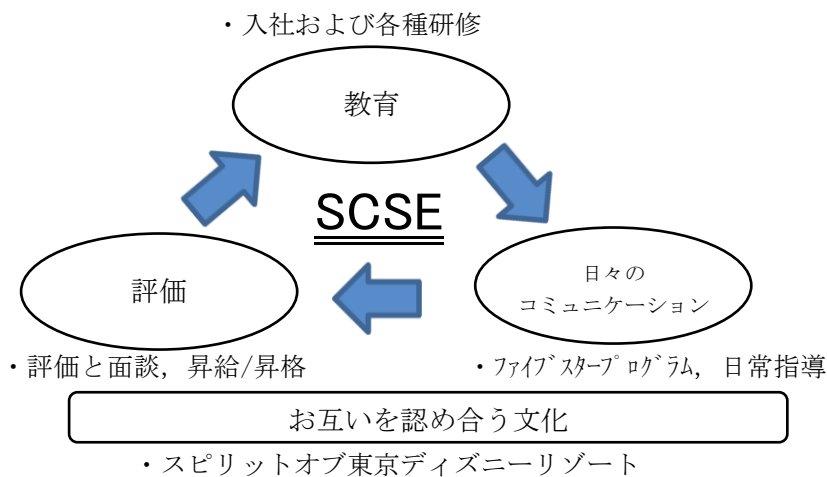
- ① 社員（一般メンバー）に求める行動要件  
「より良く」、「やり切る」、「一丸となって」
- ② 社員（マネジメント）に求める行動要件「4D」  
「掘り下げる/Dig」, 「決め切る/Decide」,  
「引っ張る/Drive」, 「育てる/Develop」
- ③ キャストに求める行動基準「4つの鍵（SCSE）」

「安全性/Safety」・・・安全は最優先  
「礼儀正しさ/Courtesy」・・・挨拶/スマイル/言葉づかい/アイコンタクト  
「ショー/Show」・・・パーク全体が劇場/毎日が初演  
「効率/Efficiency」・・・ゲストが快適に過ごすために必要な迅速さ

※「SCSE」が出来て「E」を求める。マニュアルではなく自ら判断し行動することが重要。

たくさんあると伝わらない、届かない、意識変わらない。その結果3つに行き着いた。この仕事は右上がりにならない。小さなことでもより良くしていく。やり切らないと達成できない。

### (3) 一貫してやり続ける



※「SCSE」に基づいて、褒められる、叱られることが一番のポイント

#### ○ 環境変化に伴う社会課題と社会ニーズ

- ① ICT技術の進歩により  
バーチャルの進展⇔リアルへの希求
- ② 人口減少や個人・家族の孤立化により  
コミュニティの希薄化⇔きずなの大切さ
- ③ グローバル化の進展により  
日本基準から世界基準へ⇔日本の魅力の再認識

#### ○ 当社事業と社会課題

- ① 当社事業の提供価値  
「非日常空間」における
  - ・ 「ハピネス」,
  - ・ 「夢・感動・喜び・やすらぎ」
- ② お客様からキャストに期待いただいていること
  - ・ 笑顔, 挨拶
  - ・ 自分の気持ちに気づいてくれる
  - ・ キャストやお客様同士の触れ合い

#### ○ 最後に

- ・ 事業を通じて → お客様の東京ディズニーリゾート体験  
→ 社会貢献活動
- ・ 従業員を通じて → 従業員一人ひとりの幸せ  
“人財は社会からの預かりもの”

↓

幸せな社会づくりの一助になりたい